

日印機工 創立 70 周年記念式典を挙

## 『新しい躍進』の第一歩を誓う

1937 年(昭和 12 年)に東京印刷製本機械製造工業組合としての設立から、70 周年を迎えた(社)日本印刷産業機械工業会(小森善治会長)は 5 月 30 日、東京の虎ノ門パストラルホテルにおいて「創立 70 周年記念式典・祝賀会」を開催した。会場には、各界からの来賓、関連団体代表、会員企業らおよそ 300 名が出席し、70 周年という節目を祝うとともに印刷産業のさらなる飛躍を誓い合った。また式典では、経済産業大臣表彰、同製造産業局長表彰、工業会会長表彰、同優良従業員表彰が行われ、永年にわたり印刷産業の振興発展に貢献したその功労を称えるとともに、今後のさらなる尽力に一層の期待が込められた

午後 4 時 30 分、開式に先立ち挨拶に立った小森会長は、まず「振り返ると、バブル経済崩壊後、生産高が大幅に減少し、大変厳しい状況が続くなど幾多の困難があったが、このたび 70 周年を迎えることができたのは、会員企業のたゆまぬ努力と多くの皆さんからのご指導、ご高配のお陰である」と、あらためて関係各位に感謝の意を述べるとともに、創立以来の会員諸先輩の功績と印刷産業にかける情熱に対し敬意を表した。

そして日本経済の現況について「わが国の経済環境は大きく好転し、当業界の平成 18 年の生産高も前年比 9.3%増の 4200 億円となっているが、これは国内の設備投資が本格的な回復に至らぬ中、海外への輸出が大きく伸びたことが要因となっている。当業界のさらなる発展を期待している。」とその景気動向を分析した。

そのうえで「当会としても認識を新たにして、時代に対応した会の運営や会員が期待する事業活動を的確に行なうことでその活動価値を高め、一層効率的な取り組みを行なう必要があると考えている。今後、工業会が一丸となり関係官庁、関連諸団体をはじめ皆さんの支援を頂きながら諸課題を解決し、印刷産業機械産業のさらなる発展を実現できると確信している」と、これからの同会の果たす役割と目的を明らかにするとともに、今回の 70 周年がそのための「新しい躍進」の第一歩であることを宣言した。

印刷産業機械業界物故者に対する黙禱が行なわれたのち、来賓を代表して二氏から祝辞が述べられた。

まず、経済産業省製造産業局長の細野哲弘局長は、「70 周年というのは大変永い歴史である。その間、2 度のオイルショックやバブル崩壊、そして様々な環境変化など多くの困難があったが、その荒波を乗り越え、現在まで残っている企業の皆さんは本当に強い企業である。こういった企業の努力が日本全体の産業の競争力を作っていると感じている」と、同業界の日本経済における足跡について評価したうえで、「またこの業界の特徴は文化を支える産業であること。様々な媒体が存在するなかで、やはり印刷なくして日本の文化は語ることはできない。

そういったなかにおいて工業会の皆さんが果たしてきた役割は非常に大きい。今後は国際化、省エネなど諸問題が山積しているが、我々も一体となって、それら諸問題の解決に向け積極的に協力していきたい」と、さらなるグローバル化に向けた努力を呼びかけるとともに、そのための協調を確約した。

続いて日印産連・藤田弘道会長からは「昭和 12 年に貴工業会の前身である東京印刷製本機械製造工業組合が創立されたが、当時は日中戦争勃発による輸入制限による長期資材の不足など、極めて困難

な時代であったと思う。その厳しい情勢化の中、我々、印刷業界のため印刷関連資材を提供してもらうなどその努力には非常に感謝している」と先人達の功績に対し深い敬意を表した。

藤田会長はそのうえで、「以来 70 年の永きにわたり、創立の精神を受け継いでいる会員企業においては、品質、性能の向上、技術開発に積極的に取り組み、我々印刷産業の各時代における最新鋭の機器を提供し印刷業界を支え続けてくれた。印刷産業はおかげさまで、出荷額が約 7 兆 2000 億円という内需型産業として日本産業界の主要業種の一角を占めるまでに発展した。これも我々のパートナーである貴工業会ならびに会員企業の皆さんのお陰である」と、これまでの協力に対しあらためて感謝の意を述べた。

このあと表彰式に移り、経済産業大臣表彰受賞者 3 名、経済産業省製造産業局長表彰受賞者 4 名、工業会会長表彰(経営功労者)受賞者 25 名、工業会会長表彰(優良従業員)受賞者 67 名の計 99 名に表彰状が贈られたのち、記念式典が閉幕。

午後 6 時から記念祝賀会が催され、冒頭、挨拶に立った石田明副会長は「おかげさまで創立 70 周年記念式典、平成 19 年度の総会も無事に終了することができ、これも関係各位の協力の賜である。本日は、業界の振興発展に指導的役割を果たしてきた永年役員並びに業界の振興発展に著しく貢献された方々、また長期にわたって企業の経営、発展に多大な貢献をされた方々に対して表彰状が贈られた。受賞された皆さんには、当工業会及び企業への貢献に敬意を表する」と、お祝いのことばを述べたうえで、「最近の当業界の現状を見ると、去年は輸出の大幅な増加のため前年比 9.3%増となったが、国内の設備投資は未だ本格的な回復には至っていない。私どもが生産している機器は、今後も印刷産業の発展に無くてはならない製品であり、その果たすべき使命と役割には、相当大きなものがあり、また業界からも期待されていると考えている。」と、70 周年をスタートとしたさらなる飛躍に向けての抱負を述べた。

続いて来賓を代表して経済産業省製造産業局産業機械課の高橋泰三課長から「この 70 年には、さまざまな困難があったと思うが、その難局を乗り越え今日に至ったことに対し改めて敬意を表する。今年には 4 年に 1 度の IGAS の年である。日本の誇る最新の印刷関連機器を世界に向けて発信し、グローバルなビジネス展開につなげてもらいたい」と、IGAS を起点とした業界のさらなる進化への期待の意を述べ祝辞とした。

このあと乾杯に移り、全印工連・浅野健会長が登壇し「現在、日本の印刷産業は、国際的にも世界の最高水準に達しており、我々もそれを誇りにしている。これは全て皆さんの努力のお陰であると認識している。」と感謝のことばを述べ、「おめでとう」の発声で祝宴となった。

(2007 年 6 月 5 日 印刷ジャーナル 掲載)

2007 年 6 月 15 日 プリンテックスステージニュース 掲載

2007 年 6 月 19 日 印刷タイムス 掲載)